

預言の成就とされている聖書解釈を斬る -4 エゼキエル書はいつ成就する？

エゼキエル書に関連したこれまでのレポートのまとめとして、この書が成就する時節は聖書のタイムラインの中のどこに位置するかを考察したいと思います。

エゼキエル書の全体のテーマは「イスラエルの復興、ユダヤ人の故国への帰還」です。

結論から先に述べますと、イザヤ書など他の預言書でも、繰り返し述べられている同様のこの出来事は、メシア王国の元、ハルマゲドン後の千年期に成就すると考えられます。それは成就の開始時点も同様です。

そのように捉えるべき聖書的根拠についてですが、エゼキエル 38,9 章のまず、マゴグのゴグに関する記述に注目しましょう。

イスラエルの故国への帰還も、ゴグに対する裁きも、その預言が成就する時、人々はそこに神の働きを見、神を認めるようになる、という付随的な目的が成し遂げられます。

ゴグがイスラエルを攻めよせるタイミングに関連して、その時のイスラエルの状況をこう描写しています。

「多くの日が過ぎて、あなたは命令を受け、終わりの年（ヘ語：アカーリース シャーナー）に、一つの国に侵入する。その国は剣の災害から立ち直り、その民は多くの国々の民の中から集められ、久しく廃墟であったイスラエルの山々に住んでいる。その民は国々の民の中から連れ出され、彼らはみな安心して住んでいる。」（38:8）

『私は城壁のない町々の国に攻め上り、安心して住んでいる平和な国に侵入しよう。彼らはみな、城壁もかんぬきも門もない所に住んでいる。』（38:11）

ここで注目したいキーワードを他の翻訳からも拾い出してみます。

「剣の恐れから解放され、今は皆、安らかに」「困いのない国、城壁もかんぬきも門もなく安らかに生活している静かな国」（新共同訳）

タイミングと状況としては、諸国から集められた後、戦争や騒乱（、今や防犯の必要もないほど平穏に暮らしているという状況です。

ゴグはそうしたところを、突然襲うということです。

多くの牧師や、聖書預言について扱っているフロガーの方のほとんどは、このマゴグのゴグに関する預言は、ハルマゲドン直前の反キリストの行動として捉えているようです。しかし、終末期のしかも、その最終日部分で、こんな平安な状況がイスラエルに訪れるでしょうか。1948年の建国以来、度重なる戦争や紛争の絶えない状況ですが、とりわけ最後の1週についてダニエル9章の預言は、明確にその状況を否定しています。

「・・・やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。」(ダニエル 9:26)

この預言は70週の最後の1週に関するもので、荒廃をもたらす憎むべきものと表現される反キリストの軍勢による行動を描いています。

「その国は剣の災害から立ち直り」(38:8)という部分ですが、歴史上数え切れない程の戦争があった中で、この「剣の災害」は最も象徴的な出来事であるはずですが。

それは西暦70年の国家破滅、ユダヤ人離散に匹敵する出来事でしょう。

しかし、「立ち直って、安らかに住む」ようにはなっていません。

明らかにこの剣の災害は、ハルマゲドンに至る「肉なる者は誰も生き残れない」と表現される大患難の出来事にちがいません。

ですから、イスラエルに定められている最終部分は完全な荒廃に至るまでずっと戦いが続きます。

つまり、マゴグのゴグに関するエゼキエル38,39章はこの終末期には成就し得ない、ということなのです。

やはり、エゼキエルのイスラエルの帰還はハルマゲドン後の千年王国の時代入ってから行われ、そして、千年期を通して、神により養われた後、「多くの日が過ぎて(38:8)」千年の終わりに、マゴグとゴグの攻撃があるという黙示録22章に示されるタイミングでなされると捉えるべきでしょう。

エゼキエル書の成就是、その全体のテーマからも、また聖書中の様々な箇所でも約束されるイスラエルの帰還と復興と平穏、神の主権の回復、異邦諸国民からの信頼など、これが成就するのは千年期以外にはあり得ません。

「わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。主を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。

その日、エッサイの根は、国々の民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のいこう所は栄

光に輝く。

その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買取られる。残っている者をアッシリア、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、海の島々から買取られる。主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。

エフライムのねたみは去り、ユダに敵する者は断ち切られる。エフライムはユダをねたまず、ユダもエフライムを敵としない。」(イザヤ 11:9-13)